



知識と経験を捨てなければ 新しいものは生まれない！！

どうすれば先入観を取り除けるかといえば、常に脳味噌を初期化するしかないだろう。残念なことに、これがとても難しい。

難しいから、誰しもが容易い方法に流されてしまう。

早い話が、「前にやってうまくいったあの方法でやってみよう」ということになる。そして、2回目もそこそこうまくいったりすると、実は大変なことになってしまう。

「たまたま＝偶然の産物」だったはずなのに、それがいつの間にか「必然」「絶対」「方程式」「公式」「原理原則」とまで祭り上げられてしまうからである。

こうなると、チームごと、組織ごと、部門ごと、会社ごと、「先入観」の塊に陥ってしまう。そして、仕事の業績は段々と下火になっていく。

「勝利の方程式のはずなのに、どうして利益が出なくなったのだろうか？」

そもそも、その勝利の方程式がたまたまのまぐれ当たりや、賞味期限切れになったに過ぎない。こうなったら見切り千両、損切り万両で、今までのやり方をさっさと捨てて、新しい方程式を作らなければいけない。

「失敗した」「うまくいっていない」ということが転換せよ、というメッセージなのだから。昔から窮すれば変ず、変ずれば通ず（『易経』）ということが言われている。

窮しても変ぜず、変ずることが無ければ通ずることも無い、というのはものの道理である。だから、いつも言っているように、ご破算で願いましては、とソロバンを直す必要がある。原点に立ち返ってみるのである。

常に0から考える。初心に戻って考える。原点に立ち返ってみる。易きにつかずにとことん練ってみる。うまくいったやり方を疑ってみる。これでいいのかと自問自答してみる。これをヨゼフ・アロイス・シュンペーターというオーストリアの経済学者は「創造的破壊」と呼んだ。ただの破壊なら誰でもできる。さらにベターな付加価値を求めて、既存の価値＝仕組みを与えてぶっ壊す。創造的破壊のポイントは、まだ余裕があるときに仕掛けることである。逆立ちしても何も出なくなってからでは、そんな博打は打てない。そこそこ成功しているからこそ、あえて否定してみる。もっといい方法があるのではないかと、貪欲に考える。飽くなき追究・追求のできる人でなければ、ビジネスには勝てない。

資本主義社会は破壊と創造の繰り返しだからである！！



——以上